

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【地域別】西砂学習館【概要】

日時：令和4年11月5日（土）

10時30分～11時30分

場所：西砂学習館

1 開会の挨拶

（市長）

おはようございます。今年度、西砂町では初めての「市長と語ろう！」を開催します。初めてということで不手際もあるかもしれませんが、気をつけて、しっかりと皆さんに分かりやすいようにお話をさせていただきたいと思います。私も、この地域で生まれました。もう生まれてから70年も経ちます。中学は、大体1クラス、多いクラスで25人ぐらい、昭和20年でしたから子どもが生まれるのが極端に少なく、私のクラスは全部で25人しかいませんでした。そんな思い出があるこの土地ですけれども、当時とは全く違って、華やかに大勢の子どもたちが喜びながら、大変伸び伸びと学習、あるいは友達との交流ができています。第七中学校の先日の火事騒ぎのときには、そのことを考えていたところでございます。本日は、4名の方にご出席をいただきました。私から、あるいは細かい部分に関しては担当の職員からお話をさせていただいて、この会合が皆さんにとって、私どもにとってもいい会合になった、いい話し合いになったということで終わりたいと思っています。私も頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。

2 意見交換会

（司会）

それでは、まず事前にいただいた質問について、市長の清水からお答えをさせていただきます。まず、1つ目のご質問です。「松中小学校の通学路について、五日市街道の歩道を安全に歩きやすく整備してほしい」といただきました。

（市長）

小学校の通学路については、平成24年度から学校、保護者、道路管理者、交通管理者、教育委員会等が合同で通学路の点検を行っております。ご指摘いただいた五日市街道については、路側帯や自転車ナビマークが薄くなっていることが確認されましたので、路側帯の白線と自転車ナビマークを北多摩北部建設事務所に再塗装をお願いしたところです。なお、五日市街道は都道のため、管理は東京都となります。歩道の整備等、安全対策については、機会を捉えて東京都に要請してまいります。

（参加者）

私が今の要望をお願いしたのですが、白線もありがたいですが、ガードレールや赤いポールはすぐ立てられると聞いたのですが、そういったものや、段差をつけるのは幅的に難しいかなと思いますが、そういった本当に身を守れるものが実際はあってほしいなと思っています。五日市街道全てが通学路ではないと思いますが、通学路の部分だけでもまずはお願いできたらなと思っています。

（総合政策部長）

先ほど市長もお話ししましたとおり、市が整備できるのであれば、すぐ行動が取れますが、五日市街道は東京都が全部管理をしている道路なので、このようなお話は、まずは市長のほうから小池都知事にしっかりとお伝えをしていくということになります。我々も仕事上、五日市街道をよく通ります。どうしても、天王橋からこちらの西のほうに来るとガードレールがなくなっていたり、歩道が片側で逆のところは白線だけだったりということがあり、特に通学路は、お子さんを通わせるのは心配なところがあると思いますので、そこはしっかりと都に伝えていきたいというところと、物理的に、どうしても白線があるところに電柱が立っていたり、いろいろと障害物があったりしますので、そのところはお子さんが通るには非常に危険なので、しっかりと対応を取っていただけるように我々も要望していきます。市の中でも、通学路なので、関係する教育委員会の部署と、あとは交通安全を担当している部署、それから東京都、警察も含めて3年ごとぐらいに点検をしています。例えば五日市街道では、どうしても信号待ちをしてしまうと、あの狭いところで子どもたちがいっぱい滞留してしまうと危ないので、そこは何か工夫をしようとか、ポールが立っているところもありますが、そういったものを少しずつ広げながら、できるだけ危険を排除するように申入れは市からしっかりしていきたいと思います。ですので、またそのようなお声は松中小学校なり、いろいろな地域のほうから市に上げていただければ、またそれをもって我々も動いていきますので、よろしくをお願いします。

(参加者)

実は、北多摩の都の管轄の方に何回かお願いしていて、本当に危ないなというところはすぐつけてくださりました。でも、1年以上前ですけども、交差点のところだけという感じで止まってしまっていて、ほかの近所の人とかも何回か市役所だとか北多摩のほうにお願いしていますが、そこから進展がなくて、もうちょっと力を入れてもらえたらなと思っています。

(総合政策部長)

そこはまた、市長の力も少し借りながら進めていきたいと思います。

(参加者)

そうですね。今回、ぜひと思ひまして。

(総合政策部長)

歩道を広げるという形になると、道路沿いにお住まいの方がいらっしゃいますし、土地を買収する必要もあります。もし、道路としてお使いいただいているというお話がいただけても、今度は予算を立てて買い取っていかなくてはいけない。それも、きれいに真っすぐ全部広げるとなると年数もかかりますし、大変な作業になりますので、まずはできることから行っていきたいと思います。

(参加者)

ポールとかでもいいなと思っています。

(総合政策部長)

ポールとか、何か現状でできること、そういったことでお話をしていただければと思います。

(参加者)

はい。ぜひお願いします。

(総合政策部長)

はい。よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

(参加者)

ありがとうございました。

(司会)

それでは、続いてのご質問に参ります。「私は、今3人目を妊娠中です。そのため、市の独自の子育て支援が気になっています。例えば、今話題になっている明石市を拝見しますと、子育て支援にとっても力を入れていらっしゃると思いますが、そういう政策についてはどう思うかを知りたいです。」

(市長)

子育て支援策についてです。自治体ごとに状況や課題は異なるため、一律に比較することはできませんが、私も子育て支援は市政運営の中心課題の一つとして考えています。例えば、明石市が今年度から始められた使用済み紙おむつの持ち帰り廃止については、本市では、昨年度より開始しています。また、保育所の給食費についても、独自財源をあてて、保護者のご負担を軽減するなど、先行して取り組んでおります。そのほか、新たに「たしかわ版・出産応援育児パッケージ」として、出産世代にS u i c a 2万円を配布するほか、医療費の助成については、令和5年4月1日より、中学3年生までであった子どもの医療費助成を高校生年代まで拡大いたします。明石市の取組では、情報発信が優れている印象を持っているため、ここで運用を開始するL I N Eなどを活用しながら、情報発信も工夫してまいります。

(参加者)

私が今の質問をした3人目を妊娠中の者ですが、私はもともと愛知に住んでいて、立川っていいなと思ってここに引っ越しておうちを建ててととなって、すごく住みやすくていいまちだなと思っています。明石市が最近すごく話題で、今の話を聞いて、質問とかではないですが、医療費なども高校生まで上がるとか、明石市に近いことを検討して下さっているんだなと思ってとても安心しました。育児パッケージも、1人目のときはなかったのですが、そういうのが増えているんだなと感じることもありました。保育料とか、私は働いていましたが、妊娠して、つわりがひどくて一旦辞めなければいけなくて、また次再開するのが1年半後ぐらいになりますが、そのときに第二子と第三子が保育園の時期と重なるので、どうにか安くなれば、私の給料内で保育料をほぼ取られる感じになってしまうのは、毎日すごく大変だから、保育料とかがどうにかなったらまたよりうれしいなと思いました。

(総合政策部長)

ありがとうございます。明石市が様々な取組をされているのはもちろんですが、明石市の市長はすごく情報発信が得意で、そういうところがまた、マスコミも取り上げて、ほかにパフォーマンスもあって取り上げられるということもあると思います。子育ての支援は非常に先進的にやられていますけれども、我々立川市としても、明石市にそれほど引けを取っているとは思っておりません。逆に先んじてやっているところもありますので、その辺はしっかりこういった市民便利帳みたいなもので、あとはお子様版の便利帳もそれぞれご家庭に配付をしていますので、いろいろなサービスを見ていただければと。特に今3人目ということで、お子さんが増えれば増えるほどまたいろいろな手厚いサポートはご用意していますので、市のほうにご相談いただければと思いますのでよろしくお願ひします。住みやすいと感じていただいているところを、もっと住みやすくして、ぜひ他の方にも立川のいいところをお勧めいただけると我々も励みになりますので、よろしくお願ひします。

(参加者)

ありがとうございます。

(総合政策部長)

あとは、先ほどの医療費のところは、ちょうどここで、市長の思いがありまして、来年からは高校生まで完全に所得制限を撤廃していく方向で、ご負担のないような形を取っていただけるように、今そのための作業を進めています。

(参加者)

児童手当も、1,000万円を超えたらもらえなくなってしまうとか、何で所得制限、働けば働くほど損するのかなって。まあ、それは国の政策だから、市がどうという問題じゃないのかもしれないですけども、そこを何とかカバーしてくれるような、働いても損にならないようになってくれたらなど。

(総合政策部長)

どうしても所得制限というのは、今まで設けていましたが、都の制度だったり国の制度だったりいろいろとあるわけですが、そこはしっかりやっつけようというところなんです。国や都にお金を出していただけるわけではないので、市に入ってくる皆さんから頂いた税金をそういったところに少し充てながら、できるだけ支援をしていきたいという市長の判断がありまして、これからまた予算を組み立てる作業を行っていきますけれども、できるだけ来年度からというところで動いています。

(参加者)

よろしくをお願いします。

(総合政策部長)

またいろいろな要望があれば、その都度子育ての担当部署におっしゃっていただければ、なかなか気づかない支援の制度も市ではいろいろ用意していますので、聞いていただければと思います。ちょうどこのタイミングで開始しましたLINEによる情報の発信も、お子さんがいらっしゃるとか属性を細かく設定していただけると、その方に合った情報が担当のほうから発信できるようになっています。10月から始めたばかりなので、まだうまくいっていない部分もあるかと思いますが、そういった情報も出していただければと思いますので、ぜひ活用してください。

(参加者)

はい。よろしくをお願いします。

(参加者)

今、お子さんの子育てのことでご意見がありましたけれども、保育園のお話もありましたが、僕は全然子育ての世代ではないので分かりませんが、保育施設というのは十分なのでしょうか。というのは、一番町の事情はよく分かりませんが、西砂町は今すごく人口が増えていて、西砂小の校舎の建て増しなんかをやらなければいけないような状況ですので、ということは、増えていらっしゃる人口の多くは若い方なのかなというふうに思いますね。そうしますと、小学校だけではなくて保育施設のほうも、あるいは幼稚園なのかもしれませんが、働くということであれば保育施設の数も果たしてどうなのかなというのは、情報を全く私は持ち合わせていないので、その辺も教えていただけるとありがたいなと思います。

(総合政策部長)

保育園については、数年前までは待機児童がたくさんおりました、お子様を預けて安心して働くということができない状況でしたが、市でも待機児童ゼロを市長の公約で掲げて取り組んだ結果、待機児童は、今はほぼ解消されています。ただ、地域的に人口の偏りがどうしてもありまして、皆さん西砂町・一番町地域はご覧のような状況で、たくさん戸建ての住宅やマンションができていたりして、お子さんが非常に多い状況です。多くの保育施設は民間にお願いをして、また公立の保育園を民営化することも進めまして、定員は増やしてはいますが、やはり偏りはあります。市内全域で見ると保育施設は足りていますが、どうしても地域ごとで見ますと待機児童が出ているところもあります。また、預ける園についてもそれぞれの保護者の皆さんで、お好みの保育をやっているこういう園がいろいろと様々な要望もありますので、希望者が集中してしまう保育園もあります。そういったことで待機児童は出ていますが、保育施設についてはすごく増やしてきましたので、今は充足している状況です。ただ、その年代がその後どうなるのか、西砂地域で言いますと、西砂小学校に皆さん通うこととなりますが、教室の部屋数をどうするのか考える必要があります。またそのタイミングで国が少人数学級、今まで40人だったクラスを35人にしましょうとか、30人にしましょうというように、だんだん少人数でしっかり教えていこうという国の施策が出てくると、また教室が足りなくなるということがあります。今、西砂町は人口が伸びていますが、しっかり市でも対応をし、必要があれば保育の施設も見ながらやっていきたいと思えます。なかなか人口の問題は難しいですが、皆さんにご迷惑がかからないような形ではしっかりやっていきたいと思えます。

(参加者)

今のお話で、一番町にお住まいの方の保育施設の充足度はどうなんですか。

(参加者)

最近、そこの子育てひろばでママ友とよくしゃべっていますが、まだ保育園とか幼稚園に通う前の子どもを一時預かりで保育園に預けたりしますが、一時預かりの保育士の先生が足りていなくて、ちょっと預けたいなということがなかなかできないと言っていて、保育園の先生の数もやっぱり足りていないのかなという印象です。

(総合政策部長)

保育園の先生、保育士については、待機児童対策というところで、それは日本全国ですが、保育施設を一斉に造った中で、保育士の取り合いになってしまい、ある自治体では追加で保育士に手当を支給し、そういった条件のいいところに行ったりしながら動いている保育士もたくさんいらっしゃると思います。立川市でも、そこはしっかりと手当はしながらやっていますが、それは常勤の保育士さんに対してということになります。一時預かりは、いわゆる常勤ではなくて、その時間帯をパートで、資格のある方にその時間をお願いするとか、いろいろな条件がありますが、そういった方も取り合いになっているところで、今保育士さんの確保がなかなか難しいのかなというところはあります。市でも、しっかりとそういったところは応援、支援しながら確保するようにはしていますので、施設はあるけれども、保育士さんが見つからなくてできないということは皆さんにご迷惑をかけますので、そういうことがないように、また担当のほうには話をしていきたいと思えます。

(参加者)

今ぐらいの時期から、結構幼稚園に向けて預けたいなっていうお母さんが増えているみ

たいなので、この時期から対策をしていただけると私もありがたいです。

(総合政策部長)

その声は伝えていきたいと思いますので。

(参加者)

そうですね。増やして、急募みたいな感じでしていただけるとありがたいかなと思います。

(総合政策部長)

はい。取り合いになっているので、魅力を出しながら、あとは賃金といいますか、手当もしっかり確保するようにしていければと思います。そこはしっかり伝えていきたいと思っています。

(参加者)

よろしくお願いします。

(参加者)

つながりで、いいですか。ちょっと預けたいという方はすごく多いと思いますが、そういうのがないなと感じていて、私は新潟県から引っ越してきましたが、そのときに、1時間何百円かでぱっと預けられるという、保育士さんが常駐しているところがあって、そういった気軽な感じがなかったなと思いました。

(参加者)

2か月前から予約が必要とか。

(参加者)

そうですね。突然小学校の予定が入ったりとかで、どうしても自分の親族に休んでもらって預かってもらったりとか、もうちょっと気軽に預けられる、子育てひろばも、あの一部屋じゃ狭いかなと思います。もうちょっと未就学児が遊べる場所に力を入れてもらえたら、公園も少ないかなと思います。

(参加者)

少ないですね。

(参加者)

はい。幼稚園に入る前、保育園に入る前の子どもたちの居場所が、本当にこの辺は少ないと思います。

(総合政策部長)

子育てひろばも、この建物にもありますが、それ以外に民間であったり、保育園の開放も少しはやっていたりはします。けれども、先ほどお話しされたような、今日ちょっと預けたいなとか明日預けたいなといったときに、一時預かりであるとまず事前に登録をして、面接をしたりしながらまた申込みをして、それで空きがあればという流れで、必ず先の予定を見て確保しておかないと、今の制度ですと空きがない状況です。本当の子育て支援であれば、必要なときに必要なサービスが受けられるというのは大事ですけれども、なかなか今そこまではできていないので、そこはしっかり担当のほうに言いながら、こういった形であれば皆さんが使いやすい子育て支援になるのか考えたいと思います。一時預かりも、短時間なのか、丸々1日なのか、半日なのか、2時間、3時間でいいのかとか、多分いろいろな使い方があると思いますので、そういったものもサービスとして提供できるように少し工夫をしてみたいと思います。ただ、なかなかすぐにといいわけにはいきませんが。

(参加者)

中心部から離れていると、なかなかそこまで遊びにいけないということが多いため、こっちにも何かあったらと思います。

(総合政策部長)

今、一番お子さんがたくさん元気に多くいらっしゃる地域が、多分一番町、西砂町、この地域だと思います。

(参加者)

そうですか。私が知っている限り、近くに60軒建ちます、3か所で。

(総合政策部長)

そうすると、子育てに関連する民間の施設もいろいろできると思います。当然お子さんがいれば学習塾ができますし、子どもの一時預かりのような民間のサービスももしかしたら出てくるかもしれません。ぜひ我々も情報を収集しながら、様々な形で連携しながらできればと思います。西砂のこちらの地域は畑の土地が多かった場所が住宅になってきますので、そういったところで生活しやすいようにしていければと思っています。

(司会)

それでは、次の質問に参ります。五日市街道の信号についていただきました。「西砂郵便局を右に見て、五日市街道を数メートル進んだ交差点に信号がついている。左手にセブンイレブンあり、北のほう、阿豆佐味神社側から五日市街道に向けた信号が8秒ぐらいととても短く、1台、多くても3台ほどしか通過できません。急いで走る車もあり、少なくとも大きな事故が近い間に2件ほど発生しています。ぜひ歩行者用程度の時間にしてもらえたらと、事故防止の面からも強く願うものです。」

(市長)

五日市街道の信号機についてのお尋ねです。信号機の管理については、東京都公安委員会で行っているため、立川警察署にご意見をお伝えいたしました。同署からは、現場周辺の信号のサイクル等を調査してみると、伺っております。本市といたしましては、引き続き立川警察署と連携を図りながら、広く市民の方々などに対して、交通事故の防止や交通マナーの向上に向けた啓発を行ってまいります。

(参加者)

私が提案した者ですけれども、やはり皆さん、今は車時代でありまして、この道路は路線バスも走っております。私も大型二種の免許を持っていますが、安全確保ということで、大型二種を取るときには、車1台に対して前後左右車を持っていると、それを運転しているというような状況で大型二種というのは許可されています。そうすると、路線バスは1台しか通らないわけです。私も、昨日もあそこを通りましたが、信号が青のときは諦めてゆっくりゆっくり走ります。でも、赤のときは、いつ青になるか分からないから急ぎます。今も言ったように8秒しか止まらないので、朝とか夕方、そのほかに五日市街道沿いの道路はメインなので、当然信号は長いです。その後、じゃ、またうちのほうの信号が青になるかといったら、ならないんですね。歩行者用の信号がまた青になって、その歩行者信号も長いです。そうすると、七、八台並んでいるときには、信号が2回、3回という状況になることをよく見ます。あと、今、車はナビがついておりまして、渋滞の場合は迂回路を説明してくれます。そうすると、今まで通ったことがないようなところを素人の方が通るので、とても車の量が増えてきています。ですので、信号をつけてくれとか、もしくは

撤去してくれというんじゃないで、ぜひ、ほんの少しでもいいので長くしてほしい。逆に、どうして安全上を考えたときに8秒なのかなというのを聞きたいぐらいの状況でございます。私の知り合いも、去年あそこでもらい事故を起こして、ガードレールを飛び越して家の近くまでの大きな事故がありました。その前もありました。私が知っているだけで3件あります。ですから、事故の未然防止ということも含めて、ぜひ一つやっていただきたいなど。今の市長のお話だと、立川警察署との継続ということでお聞きしましたので、よろしくお願ひしたいなと思っております。ありがとうございます。

(総合政策部長)

今の信号のサイクル、先ほど市長がお答えしたように、公安委員会が信号の管理を行っていますので、立川警察署へ、事前にいただいている内容はお伝えしています。ただ、8秒サイクルについて、今のお話にもありましたが、大型のバスについて、それも踏まえて一回調査をしてもらうようには伝えてみたいと思います。なぜ8秒なのかというところは、それも併せて聞いてはみえますけれども、分かった段階でまたお知らせはさせていただきますので。

(参加者)

ありがとうございます。

(参加者)

私も西砂町ですのでよく分かりますが、本線の五日市街道のほうが混んでいますと、あそここの交差点に旧道の五日市街道のほうから入ろうとするときには、青信号でも入れないんですね。何で入れないかという、西砂町宮沢の交差点の五日市街道沿いのほうの信号、立川寄りに、一番町、こちらのほうへ来る信号が、多分タイミングでうまく流れないという感じですよ。それも一つ、短くなってしまうとうまい具合にならないと思うんですけども。

(総合政策部長)

お住まいの方が少し増えたりして、車の数も増えて、昔の設定から考えると、車の量ももしかしたら増えていることもあるかもしれないので、一回しっかりと調査を警察のほうにしてもらって、逆にまたその信号が詰まってどんどん渋滞の基にもなってしまいますので、その辺はしっかり見てもらうようにもう一度申入れはしてみたいと思います。

(参加者)

結構朝の時間帯は、五日市街道自体が上り方面が混んでいますので、私は3丁目ですと西のほうですから、西砂町西の交差点というのがさらに西のほうにあるわけですがけれども、そこら辺りからというか、そのもっと先の辺りから混んでしまうんですね。渋滞が始まってしまいますので、朝方はあそここの旧道の、五日市街道から入ろうとすると、結構大変なんじゃないかなと思いますので。

(総合政策部長)

それも伝えてみます。渋滞が起きると、またそれを避けるために、いわゆる生活道路というか、路地のほうに入って行って、抜けて事故があったりするとまた大変なことになりますので、しっかり伝えて行って、警察のほうにもう一度調査をしてもらうように依頼をしていきたいと思ひます。

(司会)

それでは、次のご質問に参ります。立川市内の人口推移に対する対策についていただき

ました。

(市長)

人口推移への対策についてのお尋ねです。まず、本市の状況としては、転入数と転出数の差による「社会増」が多いことにより、市全体としては人口増加傾向となっています。その主な要因としては、交通の要衝としての立地や不動産の開発などが一因として挙げられるほか、安心して産み育てることができるかなど、様々な市の取り組みも人口の増加に影響を与えていると考えられます。なお、ここ西砂町は近年特に人口が増加している地域となっておりますので、小学校の学級数など、人口増加に伴う課題にもしっかりと対応してまいりたいと思います。今後も総合的に施策を推進することで、「住みたいまち」として発展するように努めて参ります。

(参加者)

私が、短いコメントみたいな形で質問させていただきました。総合計画のパンフレットの4ページ目に人口の見通しというのがあって、ああ、なるほど、そうかというふうに思ったわけですが、右肩上がりが増える時代では多分なくなるわけですよ。人口が減っていくということの問題点はいろいろあると思いますけれども、僕は個人的に思うのは、大きく減っていくと問題になるのは、インフラをどう維持していくのかということなのではないかと思います。

例えば西砂小で言いますと、今新しく校舎を造っていただいていますけれども、旧来の校舎はもう随分年数がたっているの、ひょっとしたら建て替えということにもなるのかなと思いますが、一方で、その頃には人口がだんだん減って行って、若年層の人口も減るのかもしれない。とすると、果たしてどういうふうに新しい施設みたいなものを建設していくのか、あるいは今の施設をどう維持していくのかということが、割と先の課題のように見えていて、あつという間に来ってしまうのではないかと。大変失礼な話ですけども、清水さんはもうその頃市長ではなくなっておられて、次の市長の方のご判断でどうしていくかというふうなことにもなっていくのかもしれないけれども、市のホームページだったかで見せていただいたのは、人口の推移に関わって、周辺自治体と協力しながらみたいな計画があるように聞いていますので、そこら辺をもう少し教えていただけるとありがたいなと思います。

(総合政策部長)

まず、人口のお話で、今までずっと右肩上がりというところ、立川はまだ転入されてくる方が多い状況で、微増か横ばいですが、今後確実に下がってくるのは、間違いのないところです。先ほどお話しされている中で、全体としては人口が減っていきますが、人口が増えていく中で造ってきた小学校や公共施設が、本市の場合は日本の中でも、全国に先駆けて鉄筋コンクリートの校舎を造ったため、早いところでももう築70年とか、鉄筋コンクリートの耐用年数をそろそろ迎えてしまうようなところが市内でも出てきています。そういうことを踏まえて、それを今後どういう規模で建て替えていくのか。建て替える際には、今お話があったように、公共施設をどのようにまとめていくのか。小学校があって、中学校があって、またこういう会館があってというところを、場合によっては小学校と何かを一緒にして、複合にすれば共用スペースは少し減らすことができるので、後々の維持管理というところも少しは負担が減ってくるだろうと。人口が減っていく中で、施設だけ残してしまうと、将来の世代にはより負担が残っていきますので、その地域でどう

いうふうに施設のあり方、再編をやっていくのかということ、今、各地域で動いてきています。西砂の地域についても、早ければ再来年ぐらいには、我々がこちらの地域をどうしていくのかということを経験の皆さんと一緒に考えながら、西砂小学校を、今一旦は増築をしていますけれども、その先、今まで建っている校舎は当然耐用年数が来ますので、それも含めてどうしていくのか。その際に、地域のこういった施設も、ここもかなり古い建物なので、これも建て替えるのか。その場所でまた新しく建て替えるとコストもかかりますし、いろいろな面で後の費用負担になりますから、西砂地域、一番町地域を含めたこの施設をどうしていくのかということを経験の皆さんと考えながら、できるだけ無駄のないように、後の負担を減らして、良い施設が維持できるようにということは今考えてやっています。具体的には、市のホームページにも掲載していますが、前期施設整備計画というのがあります。この中で、再編をどうやっていこうかということが示されていますので、後期の施設整備計画を作っていく際に、この辺の地域も検討していきますので、ぜひまたご意見をお聞かせいただくと非常に参考になりますので、よろしく願いをいたします。基本的にはもう建て替えないといけないので、建て替える規模をどうするか、そこに何を一緒に組み合わせていくのかということになってくると思います。

(参加者)

ほかの地区との連携のような、地区というよりも、ほかの自治体との連携のようなことをなさっていると出ていたような気がするんですけども、その辺はどうなんでしょうか。

(総合政策部長)

いろいろな面では、例えば隣の昭島であったり、この辺で言えば福生であったりということ、もし同じことをやっているのであれば、その辺はぜひ一緒にやっていたら効率もよく費用負担も減っていくだろうということ、いろいろなところで今取組はしています。昨日も、立川を中心とした周りの市、全部で9つの市がありますが、各市の市長が集まりまして、連携をしようということ、いろいろなお話をしています。面白い取組ですと、これから先、温暖化の問題もありますので、なるべく車を使わないために、公共機関であっても、バスであってもガソリンを使ってしまうので、いわゆるシェアサイクル、自転車をこの地域で、みんなで共有しようという話がありました。自転車を置いてあるポートを、立川であったり、福生であったり、昭島であったり、国立であったり、いろいろなところで連携をして、例えば立川のこの辺で乗った自転車を拝島のほう、あるいは福生であったり昭島であったり、別の自治体でも返却することができる、そういった連携を模索しながらやっています。いろいろな行政の手続も、立川だけでできるものではなくて、例えば昭島へ行ったり福生へ行ったりしても同じ手続ができるようなものを考えたり、いろいろなところで連携できないか。今後、コミュニティバスも、例えば昭島であったり福生であったり、いろいろなところでこの地域一体として一つ考えられないかとか、なかなか課題はあってもすぐにはできませんが、そういったことを少し連携というところでやっていきたい。特に観光の際、市内だけで全て完結するわけではないので、いろいろな地域を絡めながらやっていくのに、それぞれ強いものを持っている自治体はありますので、例えば行政サービスでも、立川にないものを持っている自治体もあつたりしますので、そういうところは有効的に活用し、図書館は今、どこでも使えるようになってきていますけれども、そういったものを少し広げていければと思います。公共施設、体育館であったり、いろいろなスポーツ施設も、立川にないものが、例えばほかの市でもし持って

いれば、今は使おうすると市内の人は市内の料金で、市外の人は倍の料金を払わなければいけなかったりしますけれども、そういったものを皆さん連携して、同じ状態で同じ料金で使えるようにできたりとか、いろいろなことを少し考えていければと思います。昨日も、各市の市長から意見として出ていたのは、いわゆる環境の問題なんかは立川だけでやってもなかなか進まないところはありますので、地域で連携しながらみんなで取り組んでいこうとか、いろいろやっていければという。まだなかなか動き出して見えるところはありませんが、1つ1つやれるものは一緒になってやっていければ効率もよく無駄がなくということも、それが連携なのかなというふうに思っています。

(参加者)

施設を改修なり何なりするときに、少し複合的なものにと話でしたけれども、柴崎の学習館と小学校か何かと一緒にあった形ですね。ああいった形が、市内のいろいろなところで展開される可能性があるということでしょうか。それから、実際にあそこはできていますので、その具体的な成果というところとあれですけども、うまくいっているのかどうか、その辺を伺えればと思いますが。

(総合政策部長)

一つの形ではあると思います。ああいう形で図書館と、このような形で学習館、それぞれ場所的にはみんな離れて、学校があって、学習館は学習館で、別の場所に図書館がありました。そこを一つにまとめています。建て替えていますので、学校からつながって、柴崎の学習館の施設の中のスペースに小学校の体育館が複合化されて入っています。渡り廊下で学習館のほうにも行けて、特にいいのは、学校と地域の図書館が一体となつていすので、子どもたちが本を借りに行ったりだとか、そういったところでは学校の図書館よりは冊数も当然多く、図書館なので司書さんがいたり、専門の方も多くいらっしゃるようなところでは、効果があるようには聞いています。全国からもそこは注目をされて、見られていると聞いていますので、そういった形で効果は出ていると思います。会館というのは、地域の中心的な使われ方をしている場所なので、果たしてそういうのがいいのかどうかというのは、地域ごとにいろいろなご意見がありますので、全部の地域を同じように複合化するという考えではなくて、その地域ごとに皆さんでご意見を出し合って、そのまま今の場所で建て替えるのがいいのか、複合化するのがいいのかご意見をいただきたいと思います。特に今、駅の近くの第二小学校では、中に学童保育所をつくって、児童館も全部入ってというような、子どもに関連した施設を一つにまとめてしまおうという形で設計して、これから工事に入って行く予定です。それぞれの地域で一番いい形を探しながらやっていければと思います。

(参加者)

ありがとうございます。

(司会)

事前にいただいた質問については、以上となります。ほかにご質問、ご意見などございますでしょうか。

(参加者)

西砂町とか一番町から小さい子の集団検診に行くのに、健康会館まで行く必要がありますが、車に乗れないママが多くて、パパが土日しか休みがないとか、そのときに、自転車で行くのもすごく遠いし、バスもないんですね。すごく不便で、小さい子を連れていくの

は大変なので、そこをどうにか、例えば西砂学習館でやるとか、直通のバスを通してくれるとうれしいなというここら辺のママが、結構そういう意見が多いので、考えてほしいです。

(総合政策部長)

いろいろのご意見はいただいています。特に、健康会館は、駐車場が狭くてなかなか止められないとか、いろいろご意見があります。健康会館は、やはり複合化ということで、またこちらの地域からするとどうしても遠くなってしまいますが、南口の昔の市役所があった場所、市民会館、R I S U R Uホールがあるところに健康会館と子どもの関係の施設を少し複合化して造る予定で今動いています。駐車場は確保していますが、やはり遠くなるというところは何らかの形で、行きにくさというのは少し解消していかないといけないと思うので、そこはどういうふうにするのか考える必要があるかもしれません。

(参加者)

みんながみんな車を運転できるわけじゃないので。

(総合政策部長)

先ほど市長からお話があったお子さんがお生まれになったときにS u i c a 2万円分を差し上げるというのは、例えば健診など、出かける際、ぜひS u i c aを使って、タクシーもS u i c aでお支払いできるものがあるので、そういったものでもお使いいただければという思いはS u i c aには含めております。ただ、なかなかいつもというわけにいかないと思うので、例えばこっこの西砂のほうの地域で手軽に健診が受けられるようにとか、今こういったタウンミーティングで声をいただいたということは、健診をしている担当のほうにも伝えていきたいと思います。

(参加者)

近い人はS u i c aを使わなくてよくて、西砂の人だけS u i c aを使わないといけないという状況は、ちょっとどうかと思います。

(総合政策部長)

はい。伝えておきます。

(参加者)

私も第三子を産んだときにS u i c aをもらいましたが、何でS u i c aなんだろうと思って、さっき情報発信という話がありましたが、ちょっとそういった意味もあるよというのは、もしそういう思いがあるのなら書いてほしかったです。何か一文でもいいから。

(総合政策部長)

伝え方が大切ということですね。

(参加者)

何でS u i c aなんだろうなと思いながら、ありがたく頂きましたけれども。

(総合政策部長)

せっかくこのような取り組みを行っているので、我々の思いはきちんと伝えていくべきなのかなと思います。

(司会)

お願いいたします。

(参加者)

実は今、私、もう3期目になりますが、立川市の文化協会の副会長をやっています、

今理事をやっております。立川まで出るのに、往復千幾らかかるっていうと、びっくりする。分かりますか。立川市の文化祭には行きますが、それをまず話しても、誰も理解してくれない。交通費は役員さんには払えないという話をされています。それはそれでいいですけれども、それも踏まえて、くるりんバスというのがいろいろなところがありますが、大体都内でも100円なんです、区間が。立川の西砂のくるりんバスもそうでした。ところが今、190円、210円となっていますね。それを考えたときに、今おっしゃったように、立川市の施設、全て市内にあるわけですね。そうすると、ここから、今月の12、13と文化フェスティバルの展示をR I S U R Uホールでやりますが、出した人は行けないんですよ。なぜかという、遠すぎて。それも一つです。ですから、まずくるりんバスの利用、なぜ倍以上になったのか。それと、くるりんバスというのを、回数が減って、それで料金が上がる、とても不思議な話だと思います。だから、やはりくるりんバス、イコール100円というのは、百均と一緒に、ああ、100円なんだなというのを、もう一度戻してもらえればと思います。それと、今話したように、立川市の一番西端なのが西砂、一番町なんです。市はこうやっていますって言いますが、そこにはその利便性を感じるものはないんですね。ですから、さっきの子どものお話もあったように、いろいろなところで西砂、一番町という場所が、昭島じゃないのかと言われることが多くて、私たちも郵便局の本局に行くには昭島に行ったほうが近いんですよ。なんですけれども、使えるものもあるんですが、お宅は立川だから駄目ですというのがあるんですね。ですから、もうちょっとこちらのほうにもいろいろな施設を考えていただきたいなと思います。

(総合政策部長)

くるりんバスは、非常にご意見をいただいています。実際運行するところでは、市からかなりのお金を投入していて、赤字もある中で、いろいろな形を今考えて、模索をしながら今の形になってきています。ただ、今の形が全て正解かというところではないと思いますし、どういったものが皆さんの足になって利便性が高まっていくのかというところは、くるりんバスの担当のほうでも今いろいろ考えて取り組んでいます。本当にこのバスの形がいいのか、それとも若干お金はかかっても、いわゆる福祉的、皆さんどんな方でも使えるようなところで、隣の小平市さんとか東大和市さんがやられていますけれども、呼んだときに来るようなデマンド型の、もう少し、いわゆるワンボックスみたいな車を運行する。そうすると経費は安くなってきます。そういったものをいろいろ導入されている自治体もあるので、市民の皆さんの足をどういうふうに確保していくのかというところは今課題で、庁内でもいろいろな部署が話し合いながら進めています。どういったものか、ただ、バスをたくさん走らせれば利便性はよくなりますが、当然経費がかかって、今おっしゃられたような、立川駅に出るのは便利になったけれど、それが、今度2,000円もかかるというのでは意味がないと思います。ですので、きちんとしたところで、皆さんが納得できるようなものを少し考えていければということで、今動き出しているところです。その結果は、またいろいろなところでご報告すると思いますので、そこを見ていただければ。特にこの地域は、やはり昭島に出るのが一番利便性は高い、便利なところもありますが、そこに出る方法、昭島とのバスも少なくなってきましたので、どういったものがこの地域で一番交通の足として皆さんが求めているのかというところは聞きながら進めていくようにはなるのかなと思っています。そういったところも少し、昭島が近いというところは、先ほど言っているような地域の連携というか、多分動きやすいエリアは、そういうところ

があれば利便性を高めるのも一つなのかなと思っていますので、またいろいろと考えていく中でご意見を聞いていきますので、ご意見をお寄せいただければと思います。

(参加者)

私は高齢者なので、65歳以上なので、コロナワクチンの5回目の接種券が参りまして、どこで打てばいいのかなということで、予約をしなくてはいけないということで、ネットで調べてみたら、それこそ今の方の話じゃないですけども、この辺の地域でコロナワクチンを接種してくれるお医者さんがいないんですね。ほかは分かりません。僕が5回目で頂いたやつなので、ファイザーのB A. 4-5です。それだと、ほかの方はどういうふうにして打つのかな。私はまだちょっと元気なので、ただ持病があるものですから早く打とうと思って、立川駅の南口の大規模接種会場に行って打ってきましたけれども、それ以外は、集団接種という形で市役所ですか、あとはどこでしたっけ、もう1か所何かあったと思いますが、それもやっぱり、それこそ遠いですよね。これから打とうという方に、何かもう少し便利なところで打っていただけるようなお医者さんの確保をお願いできるといいんじゃないかなと思います。4回目までは、西砂町にもワクチンを打ってくれる病院があったので、そこで接種をしたんですけども、5回目はその病院もワクチンなしということでした。ですから、いわゆる五日市街道沿いでいうと幸町かな、が近いといえば近いところですが、でもかなり遠いので、その辺ご配慮いただけるとありがたいなと思います。すみません。これは要望です。

(参加者)

1つだけお願いしていいですか。実は、これに関連しますが、無料のPCR検査がありますが、私は30分かかったんですね。なぜそんなにかかったかという、PCR検査ってというのは都でやっているんですね。それで、場所が分からないので、立川市役所に電話しました。そうしたら市は、「いや、これは都でやっているのだから関係ありません」と言われたんですね。でも、私ら市民は、何か困ったときには市役所に電話するわけです。ですから、もうちょっと都と市が綿密に連絡を合せて、そして場所は立川市内でやっているわけですから、ぜひそういうふうにしてほしいなという要望です。これからもいろいろなことはあると思うんです。都と市の、市はやらないけれども、市の場所ですべてが主催するというのがあると思うので、ぜひお願いしたいなと思います。

(総合政策部長)

ワクチン接種の場所については、そういったお声があったことはしっかり担当に伝えて、工夫をしてもらおうようにしていきたいなと思います。あと、都と市、それは都だよというような対応、それは皆さん、市のほうにまずはお尋ねで来ているわけなので、しっかりその方に対してはお答えをするように伝えます。そこは職員全体の問題なので、いろいろなどころで言っていきたいなと思います。「それは都だよ」みたいな言い方は、市民の方が市役所にお尋ねしているわけなので適切ではないなと思います。一旦はしっかりと都の制度であってもお伝えはできるようにしていければと思います。

(参加者)

よろしく申し上げます。

3 閉会の挨拶

(市長)

皆さん、ご協力ありがとうございました。様々なこと、私どもが普段気づかないようなことまでご指摘をいただきました。大変ありがとうございました。今後もどうぞよろしく
お願いいたします。